

【学生による ESD 活動支援】

あつまれ ECO キッズ！オンラインプログラム 活動報告書

社会科教育専修 2 回生 根本 優

1. 企画名 「つくって遊ぼう～牛乳パック de え工作～」
2. 日時 2021 年 1 月 17 日（日）13：00～15：00
3. 場所 Google Meet によるオンライン配信
4. 参加学生 学部 2 回生 南方 玲美（特別支援教育専修）、根本 優（社会科教育専修）
窪西 孝仁（数学教育専修）
学部 1 回生 木下 結等（教育学専修）、川田 大登（国語教育専修）
北野 結衣（社会科教育専修）、松岡 花（音楽教育専修）
松本 有未（音楽教育専修）、南本 桃花（美術教育専修）

5. 概要

2021 年 1 月 17 日、Google Meet を用いて、「あつまれ ECO キッズ！オンラインプログラム」が行われた。本活動では、各団体が参加した子どもたちにオンライン上で ECO に関するクイズを出題したり、クラフトを体験してもらったりした。今回ユネスコクラブでは「つくって遊ぼう～牛乳パック de え工作」をテーマに輪ゴムをつけた牛乳パックが高く飛び上がるおもちゃである「パッチンカエル」の作り方及び遊び方を参加した子どもたちに紹介した。



今回紹介したパッチンカエル

6. 活動を通じた学び

今回の活動に参加して、私は二つのことを学んだ。一つ目に遊びの中にも ECO があること、二つ目にオンライン上で伝えることの難しさである。

一つ目の遊び方の中にも ECO があることについて詳しく述べる。企画に参加するにあたって ECO に関する遊びについて考えたときに、ECO という言葉に縛られてしまい、なかなか思いつくことができなかった。最近では、ゲーム機など電気を使ったおもちゃをよく目にし、電気を使わないおもちゃで遊ぶことも ECO な遊びになるという助言を奈良ストップ温暖化の会 NASO の杉山さんからいただいてから、環境への配慮を前面に押し出したものでなくても身近な遊びの中にも ECO の要素が含まれていることに気づいた。例えば今回のパッチンカエルならば、身近にある牛乳パックを再利用しており、さらに電気を使うことがないため、ECO な遊びであるといえる。子どもたちの身近な遊びの中にも実は ECO な要素が含まれていることをこれから伝えていきたい。

二つ目のオンライン上で伝えることの難しさについて詳しく述べる。今回は例年とは異なり、子どもたちとオンライン上でのやり取りであり、さらに私たちは今回クラフト体験だったため、画面越しに作り方や遊び方を紹介しなければならなかった。パッチンカエルを作るとき、言葉だけの説明では伝わりづらい場面がいくつかあり、分かりやすく作り方を伝えるために PowerPoint に図を示したり、発表者が実際に作っているところを映したりするなどの工夫をした。このような工夫をしたことで子どもたちはスムーズに作ることができていた。一緒に作りながら教えるということができない分、対面の時より作っている様子を映すだけでなく、図を示したりするなど複数の方法で詳しく伝えることが大切だということも学んだ。

以上の 2 点が今回の活動を通して学んだことである。